

## ■ いちからわかる法隆寺

### 世界最古の木造建造物

西院伽藍の建築は、金堂を始めとして、五重塔、回廊、中門も現存する世界最古の木造寺院建築です（いずれも国宝）。金堂・薬師如来像の光背に刻まれた銘文によると、法隆寺は607年、推古天皇と聖徳太子により創建されました。日本書紀には670年に火災で全焼したことが記録されていて、7世紀後半から8世紀前半に再建、今日まで伝わります。



(写真左) 国宝 中門 飛鳥時代 (写真右) 国宝 金堂 飛鳥時代 (左) と国宝 五重塔 飛鳥時代 (右)

### 日本初の世界遺産登録

1993（平成5）年、「法隆寺地域の仏教建造物」として、日本で初めて世界文化遺産に登録されました。法隆寺の建造物47棟と法起寺の三重塔の計48棟から構成されます。

日本に仏教が伝来した直後に創建された日本最古の仏教建造物であり、その後の寺院建築に多大なる影響を与えたこと、全体的な意匠と細部装飾の双方の点において木造建築の傑作であることなどが評価されました。この登録はそれまでの石造建造物中心の世界遺産登録において、木造など多様な文化遺産が登録される道を開きました。



西院伽藍

### 日本最多の国宝数寺院

西院伽藍建築群や金堂内の釈迦三尊像、2メートルを超える百済観音や秘仏だった救世観音など、国宝だけで39件138点、重要文化財を含めると約2,500点（附<つかけたり>指定を除く）にもなります。2024（令和6）年に、昭和大修理で取り外された金堂古材3,284点が国宝・金堂の附として指定されることになりました。



(左) 国宝 百済観音像 飛鳥時代 (中) 国宝 救世観音像 飛鳥時代 (右) 国宝 釈迦三尊像 飛鳥時代

## ■ 飛鳥時代から残る古代仏教絵画の代表作「法隆寺金堂壁画」とは

現存する世界最古の木造建築物として知られる法隆寺の金堂（国宝、飛鳥時代）内部には、外陣の壁に釈迦如来や薬師如来などを描いた高さ約 3.1 メートル、幅約 2.6 メートルの大壁 4 面、様々な菩薩像を描いた、高さ約 3.1 メートル、幅約 1.5 メートルの小壁 8 面、計 12 面の外陣壁画と、本尊など諸仏が安置された須弥壇（しゅみだん）上部の「飛天図」と呼ばれる内陣壁画 20 面などがありました。

これらはおよそ 1300 年の時空を超えて現在まで残された東アジアの仏教絵画最大の至宝とされ、この美しい壁画を後世に伝えようという強い思いは、創建以来の長い歴史の中で、様々な時代、人々によって共有されてきました。

近代では明治時代に行われた九鬼隆一、岡倉天心、フェノロサらによる社寺宝物調査を契機に、古社寺保存法が定められ文化財保護制度が確立されました。法隆寺の調査も行われ、1888（明治 21）年の調査では金堂壁画についても写真撮影が行われました。法隆寺金堂は 1897（明治 30）年に特別保護建造物となり、壁画はその構成要素となりました。

以降、法隆寺金堂壁画の保存について検討が重ねられてきました。1935（昭和 10）年にはガラス乾板を使用した現状記録のための撮影が行われ、在りし日の姿を今に伝えています。

戦前から続けられていた「昭和大修理」といわれる解体修理と同時に、壁画の模写も行われていました。そのさなかの 1949（昭和 24）年 1 月 26 日、金堂は出火原因がわからない炎に包まれました。本尊・釈迦三尊像（国宝）をはじめとする仏像群と壁画「飛天図」は別の場所にあり難を逃れましたが、外陣壁画の当初の彩色は失われてしまいました。

この火災は国内外に大きな衝撃を与え、翌 1950（昭和 25）年に文化財保護法が制定される契機となりました。1955（昭和 30）年に 1 月 26 日は文化財防火デーと定められ、いまま 1 月 26 日には各地の寺社で消防訓練が行われます。

罹災した壁画は、のちに境内に収蔵庫を建て、初重の軸部とともに金堂内部そのままの形に組み立て大切に保管されています。

## ■ 金堂焼損と朝日新聞社の取り組み

1949（昭和 24）年の金堂火災後、焼損した壁画と初層の軸部は境内の収蔵庫に再構築され、金堂は初層を新たに 1954（昭和 29）年に落慶しました。その際壁画は白いままとなっていたのですが、1967（昭和 42）年に金堂壁画再現事業を発願。朝日新聞社の協力で、安田鞞彦（ゆきひこ）や前田青邨（せいそん）ら昭和の画壇を代表する巨匠たちが模写した再現壁画は、翌 68 年に金堂に納められました。

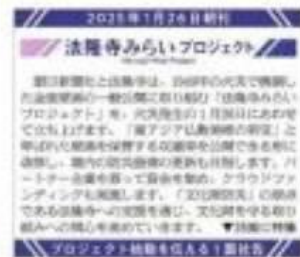
戦前に撮影された壁画の写真ガラス原板は 2015 年に重要文化財となり、画像のデジタル化も実現。在りし日の姿をしのぶよすがとして、防災意識の大切さを見る者に訴え続けます。そしていま、収蔵庫の奥で眠る焼損壁画の一般公開に向けた取り組みが進みます。文化庁と朝日新聞社などの協力で設けられた金堂壁画保存活用委員会で、公開実現への議論が交わされ、調査研究の結果を受けて一般公開に向けて収蔵庫の改修計画を進めています。壁画の焼損は取り返しのつかない悲劇ではありましたが、それゆえに決して忘れることのできない教訓を社会に刻みしました。それは我が国の文化財防災の起点であり、法隆寺は現代の保護制度の象徴なのです。

朝日新聞関連記事：[焼損した金堂壁画、守り継ぐために 法隆寺みらいプロジェクトが始動（2025 年 1 月 26 日）](#)



# 朝日新聞社と 法隆寺金堂

法隆寺金堂の大炎発生当日、1949年1月26日から、朝日新聞社は壁面の焼損に向き合い、数々の取材、報道、再生に向けて取り組みを行ってまいりました。その歩みの一部をご紹介します。



2015年11月12日朝刊 法隆寺金堂壁画再掲 法隆寺壁画再掲 法隆寺壁画再掲

## 法隆寺金堂壁画 初の科学調査

66年前に焼損 公開の可能性検討



法隆寺金堂の壁画は、66年前の大火により焼損した。そのうち、国宝級の壁画も大半を失った。朝日新聞社は、壁画の焼損状況を調査し、その原因や焼損の程度を明らかにし、壁画の再生に向けた取り組みを行っている。朝日新聞社は、壁画の焼損状況を調査し、その原因や焼損の程度を明らかにし、壁画の再生に向けた取り組みを行っている。

1967年1月1日、1968年5月21日に掲載された記事を読みやすく特選しました

### 法隆寺金堂の壁画を再現

修復記事



出所は朝日新聞関連記事： 承諾番号「26-0015」

- 1949年1月26日1面「号外）けさ法隆寺金堂全焼」
- 1949年1月27日1面「法隆寺金堂炎上」
- 1967年1月1日1面「法隆寺金堂の壁画を再現」
- 1968年5月21日1面「法隆寺展きよう開幕」
- 2015年11月12日1面「法隆寺金堂壁画 初の科学調査」
- 2025年1月26日1面「社告）法隆寺みらいプロジェクト」